

「海星中学校の郷土芸能の伝承活動の取組」 ～ 長浜地区「出羽踊り」・青瀬地区「青瀬ヤンハ」 ～

1 学校名

薩摩川内市立海星中学校

2 学年・人数

長浜地区男子生徒（計3人） 青瀬地区生徒（計5人） 合計 8人

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

平成29年9月～10月 長浜地区コミュニティセンター等

平成29年9月～11月 青瀬地区コミュニティセンター等

（2）発表の日時・場所

【出羽踊り】

平成29年10月28日（土）海星中学校文化祭（海星中）

【青瀬ヤンハ】

平成29年10月28日（土）海星中学校文化祭（海星中）

平成29年11月3日（金）青潮神社例祭（青瀬地区）

平成29年11月26日（日）下甕竜宮文化フェスタ（かのこ幼稚園）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

（1）出羽踊り（でわおどり）

ア 由来

この踊りの伝承等については、文献や古老の口伝えにも残っていない。ただ、相当前から島民に親しまれていたようである。古老の話によると、藩政時代に7つの村がそれぞれの踊りを地頭屋敷の前庭で役人方に披露し、その出来映えによっては役人方のおほめの言葉を給わると大変な名誉とされたことから、踊りの稽古に相当な日数を費やしたものだっらしい。

イ 構成等

踊りは花道から舞台に出る最初のところを「出羽」と称して、舞台上で披露する踊りを「中踊り」、舞台から引き上げるところを「入羽」と名付けられている。

（2）青瀬ヤンハ（あおせやんは）

ア 由来

由来は諸説あり、年代もはっきりしていないが、青瀬郷土芸能保存会長によると、「壇ノ浦の戦いに敗れた平氏が島に流れ着き、考え出したと伝えられている。」ということである。江戸時代には島を治める地頭の来島に合わせて披露したようである。

イ 構成等

太鼓と拍子木のリズムに合わせて、刀で切るような扇子の動きに特徴がある。「ヤンハ」という力強いかけ声の一方で、日本舞踊のような優雅な動きもある。踊りの「出羽」、「中踊り」、「入羽」の3部構成からなる。

5 保存会や地域との連携の具体

各地域の伝統芸能の伝承については、各地域の保存会が中心となり、取り組んでいる。そのため、学校においては教育活動に位置付けることなく伝承活動を支援している。文化祭において、各地域の生徒を中心に郷土芸能を披露している。

6 文化財伝承活動の取組の工夫

本校では小中一貫教育において、地域での伝統芸能を小学校5年生～中学1年生がその由来や特徴を生徒自らが取材し、壁新聞を作成している。そのため、生徒は各地域の伝統芸能に高い関心をもっている。

7 取組の様子



【練習風景（出羽踊り）】



【文化祭（青瀬ヤンハ）】

8 参加児童生徒・保護者・保存会の感想・意見

【生徒】

- ・ 文化祭で披露するのは今年で最後だったので、精一杯踊りました。これから生徒数は少なくなりますが、後輩に後をしっかり受け継いでいってほしいと思います。
- ・ 今年は踊り手が少なかったもので、地域・保護者の協力をもらいました。文化祭で、父と一緒に出演でき、最高の思い出になりました。

【保護者】

- ・ 地域の伝統芸能をきっかけに、地域を大事にする気持ちを持ち続けながら後輩に伝統をしっかり引き継いでいってほしいと思います。
- ・ これまでの練習の成果を十分発揮してくれたと思います。感動しました。これまで指導してくださった保存会の方には本当に感謝しています。ありがとうございました。

【保存会】

- ・ 生徒が少なくなっても、郷土芸能をどのように伝承していくか課題もありますが、中学生を中心に精一杯練習に励んでくれ、とても嬉しく思います。生徒の皆さんが、島立ちしても郷土を思う気持ちを忘れず、一生懸命頑張ってもらいたいと思います。